

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置										
フリガナ設置者	ガクコウホウケン ナガハラケン 学校法人 永原学園										
フリガナ大学の名称	ニシキョウシユウガクイフクイケン 西九州大学大学院（Graduate School of Nishikyushu University）										
大学本部の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9										
大学の目的	大学院は、西九州大学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会に貢献し、文化の進展と健康・福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。										
新設学部等の目的	保健医療学専攻は、データに基づいたエビデンスにより構築される知識と技術を理解し、日々技術が向上する保健・医療分野において複雑化・高度化する保健医療の課題を解決し、チーム医療を支える高度専門職業人としてのリーダーを養成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 リハビリテーション学部 看護学部 生活支援科学研究科 リハビリテーション学 専攻修士課程 看護学専攻修士課程 14条特例の実施		
	生活支援科学研究科 〔Graduate school of Human Care Sciences〕 保健医療学専攻 〔Graduate School of Health Sciences〕 博士後期課程 〔Doctor Course of Health Sciences〕	年	人	年次人	人	博士 (保健医療学) Doctor of Health Sciences	令和6年4月 第1年次	神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼町 尾崎4490番地9			
	計	2	-	6	6						
	令和6年4月名称変更予定 生活支援科学研究科臨床心理学専攻（修士課程）→同研究科臨床心理学専攻（博士前期課程） 生活支援科学研究科臨床心理学専攻（博士後期課程）（2）（令和5年3月課程変更認可申請） 生活支援科学研究科スポーツ科学専攻修士課程（2）（令和5年3月認可申請）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程	講義 8科目	演習 3科目	実験・実習 科目	計 11科目	16単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	令和5年3月認可申請 令和5年3月課程変更認可申請 令和5年3月認可申請	
	新設	生活支援科学研究科	保健医療学専攻 (博士後期課程)	11人 (11)	9人 (9)	4人 (4)	0人 (0)	24人 (24)	0人 (0)		6人 (6)
	設	生活支援科学研究科	臨床心理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)		6 (6)
	分	生活支援科学研究科	スポーツ科学専攻 (修士課程)	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)		8 (8)
	計		20 (20)	14 (14)	6 (6)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	-		

教員組織の概要	既設	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	15 (15)	修士課程を博士前期課程に名称変更届出(予定) 令和5年4月名称変更 令和5年4月名称変更
		生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻 (修士課程)	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	
	生活支援科学研究科 子ども学専攻 (修士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)		
	生活支援科学研究科 看護学専攻 (修士課程)	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)		
	生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)		
	生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)		
	生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)		
	生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)		
	計	62 (62)	30 (30)	11 (11)	0 (0)	104 (104)	0 (0)	- (-)		
	合計	82 (82)	44 (44)	17 (17)	0 (0)	144 (144)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事 務 職 員	50 (50)	0 (0)		0 (0)		50 (50)			
	技 術 職 員	0 (0)	0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員	2 (2)	0 (0)		0 (0)		2 (2)			
	そ の 他 の 職 員	0 (0)	0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計	52 (52)	0 (0)		0 (0)		52 (52)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		西九州大学短期大学部 (必要面積3,800㎡) と共用 借用面積3971.07㎡ 借用期間：30年		
	校 舎 敷 地	39,878 ㎡	14,833 ㎡	0 ㎡		54,711 ㎡				
	運 動 場 用 地	18,813 ㎡	7,630 ㎡	0 ㎡		26,443 ㎡				
	小 計	58,691 ㎡	22,463 ㎡	0 ㎡		81,154 ㎡				
	そ の 他	65,243 ㎡	3,869 ㎡	0 ㎡		69,112 ㎡				
合計	123,934 ㎡	26,332 ㎡	0 ㎡		150,266 ㎡					
校 舎	専 用	29,227 ㎡ (29,227 ㎡)	共 用	19,392 ㎡ (19,392 ㎡)	共用する他の学校等の専用		0 ㎡ (0 ㎡)	計	48,619 ㎡ (48,619 ㎡)	西九州大学短期大学部 (必要面積3,900㎡) と共用
	講義室	50 室	演習室	69 室	実験実習室	44 室	情報処理学習施設	4 室 (補助職員 3人)	語学学習施設	
教室等	新設学部等の名称		室 数		生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程					19 室
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体共用分		
	生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程	30,927 [1,230] (30,910 [1,213])	108 [10] (108 [10])	27 [3] (27 [3])	2,014 (2,014)	11,651 (11,651)	145 (145)			
	計	30,927 [1,230] (30,910 [1,213])	108 [10] (108 [10])	27 [3] (27 [3])	2,014 (2,014)	11,651 (11,651)	145 (145)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	1,960 ㎡	283 席		204,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
	3,267 ㎡	トレーニングセンター	テニスコート	多目的コート	弓道場					
		242㎡	2面	1面	89㎡					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	教員1人当り研究費等		50千円	50千円	50千円					
	共同研究費等		0千円	0千円	千円					
	図 書 購 入 費	200千円	200千円	200千円	200千円					
	設 備 購 入 費	1000千円	1000千円	1000千円	1000千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	810千円	610千円	610千円	一千円	一千円	一千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等								

既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	健康栄養学部 健康栄養学科	4年	120人	—	480人	学士 (健康栄養学)	0.77 0.77	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市 神埼町尾崎 4490番地9	
	健康福祉学部 社会福祉学科	4年	80人	3年次 10人	340人	学士 (社会福祉学)	0.67 0.50	昭和 49年度		
	スポーツ健康福祉学科	4年	50人	—	200人	学士 (スポーツ健康福祉学)	0.95	平成 26年度		
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	4年	40人	—	160人	学士 (理学療法学)	0.77 0.77 0.98	平成 19年度		
	作業療法専攻	4年	40人	—	160人	学士 (作業療法学)	0.56	平成 19年度		
	子ども学部 子ども学科	4年	80人	3年次 10人	340人	学士 (子ども学)	1.09 1.06	平成 21年度		佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号
	心理カウンセリング学科	4年	40人	—	160人	学士 (臨床心理学)	1.16	平成 26年度		
	看護学部 看護学科	4年	90人	—	360人	学士 (看護学)	1.06 1.06	平成 30年度		小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27
	大学院 生活支援科学研究科 栄養学専攻 博士前期課程	2年	2人	—	4人	修士 (栄養学)	1.07 0.25	平成 26年度		神埼キャンパス 佐賀県神埼市神埼 町尾崎4490番地9
	栄養学専攻 博士後期課程	3年	2人	—	4人	博士 (栄養学)	1.00	令和 4年度		
	地域生活支援学専攻 博士前期課程	2年	5人	—	10人	修士 (生活支援学)	1.20	平成 27年度		
	地域生活支援学専攻 博士後期課程	3年	3人	—	9人	博士 (生活支援学)	1.11	平成 27年度		
	リハビリテーション学専攻	2年	3人	—	6人	修士 (リハビリテーション学)	1.33	平成 26年度		
	臨床心理学専攻	2年	5人	—	10人	修士 (臨床心理学)	1.60	平成 26年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	子ども学専攻	2年	3人	—	6人	修士 (子ども学)	0.66	平成 27年度		
	看護学専攻	2年	5人	—	10人	修士 (看護学)	0.60	令和 4年度	小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27	
既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学短期大学部							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		地域生活支援学科	2年	100人	—	200人	短期大学士 (地域生活支援学)	0.79	平成 29年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号
	幼児保育学科	2年	90人	—	180人	短期大学士 (保育学)	0.82	昭和 40年度		
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要																
(生活支援科学研究科保健医療学専攻博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻共通科目	総合分野	総合保健医療学特講	1前	2			○				11	9	4			オムニバス共同(一部)
	専門教育分野	ブレFD: 大学教育実践プログラム	1・2・3後		1		○									兼6 オムニバス
展開科目	身体機能障害分野	保健医療学特講1	1後		2		○				1	2				オムニバス
		保健医療学特講2	1後		2		○				2					オムニバス
	認知・精神機能障害分野	保健医療学特講3	1後		2		○				1	1				オムニバス共同(一部)
		保健医療学特講4	1後		2		○				1		1			オムニバス共同(一部)
		保健医療学特講5	1後		2		○				1	1				オムニバス
	生活機能障害分野	保健医療学特講6	1後		2		○				3	1				オムニバス
研究指導科目	保健医療学特別研究Ⅰ	1通	4				○				10	8	4			
	保健医療学特別研究Ⅱ	2通	4				○				10	8	4			
	保健医療学特別研究Ⅲ	3通	4				○				10	8	4			
合計(11科目)			—	14	13	0	—				11	9	4	0	0	兼6
学位又は称号	博士(保健医療学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
「総合保健医療学特講」、「保健医療学特別研究Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」の4科目14単位を必修とする。その他、展開分野の科目から1科目2単位以上を履修し、合計16単位以上を修得すること。かつ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	総合 分野 総合保健医療学特講	<p>(概要) 保健医療学専攻博士後期課程の基幹となる講義である。本講義は保健医療分野における高度の専門的知識及び能力に関するup-to dateな情報を得るとともに、保健医療分野に関連する幅広い知識を涵養し、高度専門職業人の育成を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 岸川由紀/1回) リハビリテーション基礎研究(生理機能)に関してその実際について最新の知見を講義する</p> <p>(18 中村雅俊・22 坂本飛鳥/1回) リハビリテーション基礎研究(運動機能)に関してその実際について最新の知見を講義する</p> <p>(15 松谷信也・23 松尾萌美/1回) リハビリテーション基礎研究(認知機能)に関してその実際について最新の知見を講義する</p> <p>(3 大川裕行・7 宮本明/1回) 運動器疾患のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(1 宮原洋八・13 押川武志/1回) 高齢期障害(身体)のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(2 小浦誠吾・② 藤原和彦/1回) 高齢期障害(認知)のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(8 久保温子/1回) 発達障害のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(6 東嶋美佐子・21 植田友貴/1回) 嚥下障害のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(5 原口健三・14 小松洋平/1回) 精神障害のリハビリテーションに関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(4 大田尾浩・16 八谷瑞紀/1回) 介護予防に関する理論、エビデンスについて最新の知見を講義する</p> <p>(9 白田久美子・19 西尾美登里/1回) 臨床看護学の中で、特になが看護および在宅看護に関する理論、エビデンスを基に最新の知見を講義する。</p> <p>(10 中島洋子・24 葛原誠太/1回) 高齢者看護学に関する理論、家族看護および認知症の地域支援体制など、エビデンスに基づき最新の知見を講義する。</p> <p>(11 馬場才悟・① 新井祐恵/1回) 慢性期看護学(セルフモニタリング、自己管理行動理論)、急性期看護学(エンドオブライフケアとその家族の意思決定支援)について、英文雑誌の文献を用い、最新の知見を講義する。</p> <p>(全担当教員共同/2回) 受講生自身の研究分野についてのエビデンスについて海外の最新の知見を発表する</p>	オムニバス 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通科目	専門 教育分野 プレFD：大学教育実践プログラム	<p>（概要） 大学教育が多様化する中において、大学等の教員には、教育の能力および業績も問われるようになってきている。教員の公募書類にシラバス案提出を求めたり、面接時に模擬授業の実施が増えてきている。また、昨今の大学の授業は、学生の学びをより一層重視するようになってきた。教員は、知識を提供するだけでなく、学生の学びに焦点をあてて、学びを促進するファシリテーターとしての役割も求められている。これらの能力をより体系的・効果的に修得する授業が「大学教育実践プログラム」である。 この授業では、将来、大学等で教員としてのキャリアを選択しようとする大学院生が、授業を担当するために必要な授業デザイン、シラバス、評価方法などを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（25 管原 正志 / 2回） 大学教育の現在とシラバスの書き方について講義する。最終回においては、全講義を通したまとめと振り返りを行う。</p> <p>（28 井本 浩之 / 1回） 学習評価とルーブリックについて講義する。</p> <p>（27 田中 豊治 / 1回） 多様な教育技法と動機づけについて講義する。</p> <p>（29 山田 力也 / 1回） 授業デザインや授業計画書の書き方について講義する。</p> <p>（30 山口 裕嗣 / 1回） 多様な教育技法と動機づけについて講義する。</p> <p>（26 橋本 健夫 / 2回） 受講者は模擬授業や遠隔授業を実践し、授業改善を通して、授業デザインや教授方法などについての学びを深める。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	身体 機 能 障 害 分 野	<p>（概要）</p> <p>保健医療学専攻博士後期課程の教育研究分野の一つ、身体機能障害分野の治療科学領域の講義である。現代社会において、理学療法の活動領域の広がりに応じて科学的根拠に基づいた理学療法の確立が強く求められている。理学療法学領域の治療対象は運動器、神経系、心臓系、呼吸器、その他に区分でき、器官・臓器に発生する疾患や障害も複雑化、重要化している。これらの課題解決のため、治療科学の見地からその科学的根拠を検証するための知識を修得することを目的とする。この講義は三名の教員が専門的な立場からオムニバス形式で教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 岸川由紀／5回）</p> <p>中枢神経系疾患を中心に実験動物モデルを用いた病態や発生メカニズムの分子機構、および理学療法的治療戦略実験による組織・細胞レベルでの原因解明について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（18 中村雅俊／5回）</p> <p>運動器理学療法分野であるストレッチングが筋の柔軟性や運動機能に及ぼす影響、レジスタンストレーニングの効果に関する研究を中心に研究デザインを構築するための知識を深める。</p> <p>（7 宮本明／5回）</p> <p>摂食嚥下障害の評価と理学療法的アプローチに関する研究を中心に、具体的な介入効果の検証や介入戦略などの科学的根拠に基づいた治療法を探索する。</p>	オムニバス
		<p>（概要）</p> <p>保健医療学専攻博士後期課程の教育研究分野の一つ、身体機能障害分野の基礎医学領域に関する講義である。現代的課題である子どもから高齢者までの諸問題に柔軟に対応する実践的研究能力を備えた理学療法士・作業療法士が求められている。リハビリテーションの対象者だけでなく、予防リハビリテーションの分野においても臨床・研究・教育に当たる高い問題解決能力を持つ人材になることを目指し、科学的根拠に基づいたリハビリテーションを理解し、課題解決のための研究計画・実施に向けた研究構築について学ぶ。この講義は身体障害理学療法分野を担当する教員が専門的な立場からオムニバス形式で教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（8 久保温子／7回）</p> <p>妊娠期・新生児期、学童期そして成人期までの発達段階に関わる中枢神経障害や運動器障害、また健常児の発達について科学的根拠を基にしたリハビリテーションについて考察する。また領域の最新理論・知識など実践応用について文献からクリティカルレビューを行い、これらを通して知識を深める。</p> <p>（1 宮原洋八／8回）</p> <p>成人期から高齢期までの中枢神経障害や運動障害、さらに地域在住高齢者の健康支援について多角的にとらえ課題を解決するための方法について、科学的根拠を基に実践していく。また具体的な介入効果の検証や介入戦略について研究デザインを構築するための知識を学ぶ。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	認知・精神機能障害分野 保健医療学特講3	<p>（概要） 保健医療学専攻博士後期課程の一つ認知・精神機能障害分野の精神障害領域に関する講義である。 学術論文を含んだ話題を解説する。精神障害に対するリハビリテーション研究の世界的動向を講義する。また、学生個々の研究計画（案）を作り上げる。また、論文を作成するための基礎的な知識と技術を講義する。</p> <p>（講義目標） レビューと発表・討論の中からより効果的な治療・支援の方策を習得する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（5 原口健三／11回 15回目は共同） 1）リハビリテーション分野における精神機能障害の概要を講義 2）リハビリテーション分野における精神機能障害の文献レビューとディスカッション① 3）リハビリテーション分野における精神機能障害の文献レビューとディスカッション② 4）リハビリテーション分野における精神機能障害の文献レビューとディスカッション③ 5）リハビリテーション分野における精神機能障害の文献レビューとディスカッション④ 6）リハビリテーション分野における精神機能障害の研究と今後の展望のディスカッション① 7）リハビリテーション分野における精神機能障害の研究と今後の展望のまとめとディスカッション② 8）研究計画の作成と内容の検討① 9）研究計画の作成と内容の検討② 10）精神機能障害の研究に関する倫理的配慮</p> <p>（14 小松洋平／5回 15回目は共同） 11）リハビリテーション分野における心理支援の文献レビューとディスカッション① 12）リハビリテーション分野における心理支援の文献レビューとディスカッション② 13）リハビリテーション分野における心理支援の文献レビューとディスカッション③ 14）リハビリテーション分野における心理支援の研究と今後の展望についての講義とディスカッション④ 15）リハビリテーション分野における精神機能障害と心理支援のまとめの講義</p>	オムニバス方式 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要

(生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	認 知 ・ 精 神 機 能 障 害 分 野	<p>(概要) 保健医療学専攻博士後期課程の一つ認知・精神機能障害分野のニューロサイエンスおよび身体認知領域に関する講義である。 学術論文を含んだ話題を解説する。身体障害に対するリハビリテーション研究の世界的動向を講義する。また、学生個々の研究計画(案)を作り上げる。また、論文を作成するための基礎的な知識と技術を講義する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 東嶋美佐子/8回) ※1回は松尾萌美と共同で講義 1) 国内の身体障害系作業療法学研究トピックス 2) 身体障害系作業療法学の臨床研究に関する抄録作成 3) 身体障害系作業療法学の臨床研究に関する抄読会およびディスカッション 4) 嚥下障害に関する基礎知識 5) 嚥下障害研究に関する国内の動向 6) 嚥下障害研究に関する海外の動向 7) 担当教員の研究紹介① 8) 身体障害系作業療法学研究のまとめ(共同)</p> <p>(23 松尾萌美/8回) ※1回は東嶋美佐子と共同で講義 1) 海外の身体障害系作業療法学研究トピックス 2) 身体障害系作業療法学の基礎研究に関する抄録作成 3) 身体障害系作業療法学の基礎研究に関する抄読会およびディスカッション 4) ニューロサイエンスに関する基礎知識 5) ニューロサイエンス研究に関する国内の動向 6) ニューロサイエンス研究に関する海外の動向 7) 担当教員の研究紹介② 8) 身体障害系作業療法学研究のまとめ(共同)</p>	オムニバス 共同(一部)
		<p>(概要) 保健医療学専攻博士後期課程の一つ認知・精神機能障害分野の作業技術領域に関する講義である。 最新の国際的な作業療法等の各種技法に関する知見の確認と概要精査を実施する。それらを通じて、超高齢化社会を迎えている我が国における認知症予防が、国家の重要課題の1つにも挙げられていることの課題を理解する。作業療学分野においても、認知症予防の観点から認知症カフェなどの運営にかかわっている事例などの現状を把握する必要がある。本講義では、作業療法の各種技法の活用研究に関する知見の確認し、その概要を精査し、重要疾患である認知症予防の最新の知識との融合をはかる。また、国際機能分類(ICF)における環境因子についての知識および園芸技法を中心とした作業療法技法などの認知症予防技術について学ぶことを目的とする。この講義は、園芸療法および老年期障害を担当する教員が専門的な立場からオムニバス形式で教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 小浦誠吾/10回) 1) 最新の国際的な作業療法の各種技法に関する知見の確認と概要精査手法の習得 2) 最新の国際的な作業療法の各種技法に関する知見の確認① 3) 最新の国際的な作業療法の各種技法に関する知見の確認② 4) 認知症予防における作業療法園芸技法の臨床における現状 5) 認知症予防における作業療法園芸技法の展望 6) 認知症予防における作業療法園芸技法の作業技術 7) 認知症予防における能動的な作業療法技法の研究デザイン 8) 認知症予防における受動的な作業療法技法の研究デザイン 9) 認知症予防における能動的+受動的な作業療法技法の研究デザイン 10) 文献レビューとディスカッション</p> <p>(13 押川武志/5回) 1) 認知症予防と環境因子(環境設定)に関する概要 2) 認知症予防と活動・参加と環境因子に関する概要 3) 認知症予防と活動・参加と環境因子に関する概要 4) 認知症予防と環境因子の作業技術① 5) 認知症予防と環境因子の作業技術②</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開 科目	生活 機 能 障 害 分 野 保健医療学特講6	<p>(概要) 保健医療学専攻博士後期課程の一つ生活機能障害分野に関する講義である。</p> <p>臨床・研究・教育において高い問題解決能力を持つ人材を目指し、科学的根拠に基づいた生活機能障害分野について理解し、課題解決のための研究構築について学ぶ。生活機能障害分野の中では、がん看護学及び周手術期看護学の中で生活機能障害を持つ人への支援、老年看護学、また糖尿病に代表される生活習慣病に関する生活支援等を行う慢性看護学、地域在宅看護学についての理論や概念など最新の専門的知識や技術を学修する。そして様々な疾病や闘病生活に生じる多様な課題を持ち、療養生活を送る人々とその家族のQOLの維持向上に向けた専門的援助要因を探求する。この講義は生活機能障害分野を担当する教員が専門的な立場からオムニバス形式で教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 白田久美子／4回) がん看護学及び周手術期看護学の中で生活機能障害を持つ人に対するの支援及び健康に関する課題を中心に、理論・概念について教授し、科学的根拠に基づいた問題解決方法に向けての生活機能障害を持つ人への支援を探究する。</p> <p>(10 中島 洋子／4回) 地域包括ケアシステムの中における認知症や生活機能障害をもつ高齢者と家族に対する支援および老年看護学分野における倫理的課題や健康課題を中心に要因分析や予防・支援について、関連する様々な理論等を用いながら、科学的根拠に基づいた生活機能障害を持つ人への支援を探究する。</p> <p>(11 馬場 才悟／4回) 成人の慢性看護学で、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病に代表される生活習慣病の管理や予防についての生活支援に関する研究を中心にすすめる。さらに生活機能障害を持つ人への支援に必用となる具体的な介入効果の検証や介入戦略などを科学的根拠に関連付けて探求する。</p> <p>(19 西尾美登里／3回) 地域在宅看護学において、ジェンダー的視点から家族の生活機能障害を持つ人への支援に関する研究を中心に、理論・概念について教授し、科学的根拠に基づき課題解決に向けた生活機能障害を持つ人への支援を探求する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 保健医療学専攻博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	保健医療学特別研究Ⅰ	<p>（概要） 保健医療学分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。1年次は、研究テーマの設定および研究の準備全般を進める。</p> <p>（1 宮原洋八） 理学療法分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。1年次は、博士論文作成に向けたテーマの設定や準備を行う。</p> <p>（2 小浦誠吾） 高度な認知症予防に関する専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。1年次は、博士論文作成に向けたテーマの設定や準備を行う。</p> <p>（3 大川裕行） あらゆる人の生活支援を科学的に捉えて研究テーマを検討するとともに、関連文献の収集・分析・データベース化を図る。これにより研究計画を立案して予備実験に取り組み結果を公開する。</p> <p>（4 大田尾浩） リハビリテーション学、理学療法学分野の専門家として研究能力を身につけることを目的とする。研究課題を明確にし、研究デザインを選択し、予備調査・実験に取り組む。</p> <p>（5 原口健三） 作業療法分野の専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。特に、研究データをの収集・集計・データ処理に関して研究指導を行う。1年次は、研究プロトコルの指導を行う。</p> <p>（6 東嶋美佐子） 身体障害系作業療法分野の中でも、臨床作業療法学の国内外の研究関連論文を読んで、研究の方向性を決定して予備実験を行う。</p> <p>（7 宮本明） 摂食嚥下のリハビリテーション分野において高度な研究能力を身につけることを目的とする。特別研究Ⅰの1年次では、主に先行研究等の文献検索と研究計画の立案と倫理審査を行う。</p> <p>（8 久保温子） 生涯発達支援理学療法に関する専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1年次は研究課題の設定、研究計画策定、予備研究などを発展させていく。</p> <p>（9 白田久美子） 看護学分野の成人臨床看護学におけるがん患者の看護及び周手術期看護領域に関する国内外の論文を広範に検索・集積し、先行研究に関する文献整理を行い、受講者自身の博士論文作成に向け、研究課題の抽出、研究計画書の作成を行う。</p> <p>（10 中島洋子） 特別研究Ⅰでは、地域包括ケアシステムにおける高齢者と家族に対する支援および老年看護学分野における倫理的課題や健康課題などの研究や知見について国内外の論文を検索し、研究課題に関する先行研究を整理し、博士論文作成に向け、研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	保健医療学特別研究 I	<p>(13 押川武志) 老年期障害系作業療法分野の中でも、国際機能分類に基づく環境因子に関する国内外の最新情報を把握し、研究テーマの設定および研究計画書の作成を行う。</p> <p>(14 小松洋平) 作業療法における心理支援または精神障害者リハビリテーションに関する国内外の論文を読み、主要な課題の抽出をして、受講者自身の研究テーマをPECOに落とし込む。</p> <p>(15 松谷信也) リハビリテーション領域における治療効果または教育効果に関する国内外の論文を読み、主要な課題の抽出をして、受講者自身の研究テーマを設定する。</p> <p>(16 八谷瑞紀) 老年期に問題となる、フレイル・介護、中枢神経障害に関するリハビリテーションについて文献をもとに深く学び、問題点の抽出し、独自性の高い研究テーマを決定する。それを基に研究計画を策定、予備研究を開始する。</p> <p>(20 藤原和彦) リハビリテーションにおける高齢者支援または家族介護者支援に関する国内外の論文を読み、主要な課題の抽出をして、受講者自身の研究テーマをPECOに落とし込む。</p> <p>(18 中村雅俊) 理学療法領域に必要なトレーニング・ストレッチングなどを始めとする骨格筋に関する最新知見について日本語・英語文献をもとに深く学び、問題点を抽出、研究テーマを見出し、研究計画、測定技術の獲得を策定する。</p> <p>(19 西尾美登里) 看護学分野の、地域在宅看護学における最新情報を広範に検索・集積するとともに、先行研究に関する文献の整理と課題を抽出し、博士論文作成に向けた、研究テーマの設定と研究計画書の作成を行う。</p> <p>(20 岸川由紀) 科学的根拠に基づいた理学療法治療戦略を明らかにするため、病態生理学的観点から研究を進める。ここでは、研究課題の設定や研究計画を策定し、予備的な実験を行い研究計画の妥当性を検討する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	保健医療学特別研究Ⅰ	<p>(21 植田友貴) 身体障害系作業療法分野の中でも、重度障害者（児）に対する生活支援について科学的根拠に基づいた高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。1年次は、博士論文作成に向けたテーマの設定や準備を行う。</p> <p>(22 坂本飛鳥) リハビリテーション分野の中でも運動器障害、Women's health理学療法に特化した研究を進める。その上で高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1年次は、課題の設定、研究計画書の作成を行う。</p> <p>(23 松尾萌美) 身体障害系作業療法分野の中でも、ニューロサイエンスを中心とした基礎研究に関する最新情報を広範に検索・集積するとともに、今後の世界における主要な課題を抽出・整理して、自身の研究テーマの設定および研究計画書の作成を行う。</p> <p>(24 葛原誠太) 高齢者の急性期の生活機能の評価・せん妄の予防や、高齢者救急医療の現状と在宅との連携などに関する老年看護学分野における倫理的課題や健康課題などの研究や知見について国内外の論文を検索し、研究課題に関する先行研究を整理し、博士論文作成に向け、研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。</p>	
	保健医療学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 保健医療学分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。2年次は、テーマに沿って研究を進める。</p> <p>(1 宮原洋八) 授業概要 研究テーマに関する文献を収集しながら論文のまとめ方を学ぶ。到達目標 1年次に研究したことをまとめて学会発表、投稿する。</p> <p>(2 小浦誠吾) 特別研究Ⅱでは、一年次に身につけた専門知識や作成した研究計画に基づき、データ取得に必要な測定技術の準備、実行に移すために実際にデータを収集する。さらに、データを解析しその内容を吟味し、中間報告としてのプレゼンテーションの作成を行う。</p> <p>(3 大川裕行) 予備実験で得られた結果及び結果の公開により得られたコメントを基に研究計画を修正する。これにより研究計画を完成させ本実験に取り組む。本実験により得られた結果は随時まとめて公開する。</p> <p>(4 大田尾浩) 予備調査・実験の結果を受けて研究計画を修正し、本調査を実施する。データを分析解析し、結果を取りまとめて、研究成果の公表に取り組む。</p> <p>(5 原口健三) 研究計画にそって調査・研究データの収集を行い、データの処理・統計解析を中心に指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	保健医療学特別研究Ⅱ	<p>(6 東嶋美佐子) 研究計画に沿って研究を行い、結果の整理、データの検証、研究計画の修正、さらなる研究の追加と言った一連の研究プロセスを遂行する。</p> <p>(7 宮本明) 特別研究Ⅱの2年次では、計画した研究内容にしたがい順次に研究プロセスを行い、データ解析しながら、中間報告とするプレゼンテーションを実施する。</p> <p>(8 久保温子) 研究計画に沿って本調査を実施、一連の研究プロセスを繰り返しつつ、研究を進める。研究課程を通して博士論文・原著論文の作成方法を学習する。これまでの研究成果を中間報告として発表する。</p> <p>(9 白田久美子) 倫理委員会の承認後、研究計画に基づき、データ取得に必要な研究方法を習得、実施し、データを収集する。さらに、データの解析・検討を行う研究過程を通して、博士論文の作成方法を学修する。またこれまでの研究成果を中間発表または学会で発表する。</p> <p>(13 押川武志) 特別研究Ⅱでは、一年次に把握した専門知識や作成した研究計画に基づき、データ取得に必要な測定機器や測定技術の準備、および実行に移すため実際にデータを収集する。さらに、データを解析しその内容を吟味し、中間報告としてのプレゼンテーションの作成を行う。</p> <p>(14 小松洋平) 倫理委員会の承認後に、研究計画に沿って本調査を実施、一連の研究プロセスを繰り返しつつ、研究を遂行する。研究課程を通して博士論文・原著論文の作成方法を学習する。これまでの研究成果を中間報告または学会で発表する。</p> <p>(15 松谷信也) 倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に基づき本調査を実施し、一連の研究プロセスを繰り返しつつ、研究を進める。研究課程を通して博士論文・原著論文の作成方法を学習する。また、これまでの研究成果を中間報告または学会で発表する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	保健医療学特別研究Ⅱ	<p>(16 八谷瑞紀) 一年次の研究計画と予備研究を検証したうえで、科学的な方法に基づきデータを収集し本研究を遂行する。データを解析し結果をまとめ、中間発表、学会発表を行う。さらに、それらを基に論文執筆を開始する。</p> <p>(② 藤原和彦) 倫理委員会の承認後に、研究計画に沿って研究を実施する。一連の研究プロセスを振り返りながら研究を遂行する。研究課程を通して博士論文・原著論文の作成方法を学習する。これまでの研究成果を中間報告または学会で発表する。</p> <p>(18 中村雅俊) 特別研究Ⅱでは、一年次に作成した研究計画に基づき、データ取得に必要な測定技術の準備、実行し、実際にデータを収集する。さらに、データを解析したデータの解析・検討を行い、データの一部をプレゼンテーションを行う。</p> <p>(19 西尾美登里) 倫理委員会への申請、および承認後、研究計画に基づきデータを収集する。データ収集後、データの分析・検討を行うプロセスを経て、博士論文の作成方法を学修する。また、これまでの研究成果を中間報告会または学術大会にて発表し、データの一部をプレゼンテーションし、研究プロセスにて明らかになったデータをまとめる。</p> <p>(20 岸川由紀) 科学的根拠に基づいた治療戦略を明らかにするため、病態生理学的観点から研究を進める。ここでは、研究結果をもとに学会発表を行い、論文の執筆を開始する。</p> <p>(21 植田友貴) 特別研究Ⅱでは、一年次に身に着けた専門知識や作成した研究計画に基づき、データ取得に必要な測定技術の準備、実行に移すために実際にデータを収集する。倫理委員会の承認後に、研究計画に沿って本調査を実施さらに、データを解析しその内容を吟味し、中間報告及び学会での発表を行う。</p> <p>(22 坂本飛鳥) 研究計画に沿って研究を遂行し、結果について解釈しながら、さらに研究を進める。研究プロセスの一連の流れを学修する。研究成果を国際的学術雑誌や学会で発表する準備を行う。</p> <p>(23 松尾萌美) 研究計画に沿って研究を行い、結果の整理、データの検証、研究計画の修正、さらなる研究の追加といった一連の研究プロセスを遂行する。</p> <p>(24 葛原誠太) 倫理委員会への申請、および承認後、研究計画に基づきデータを収集する。データ収集後、データの分析・検討を行うプロセスを経て、博士論文の作成方法を学修する。また、これまでの研究成果を中間報告会または学術大会にて発表し、データの一部をプレゼンテーションし、研究プロセスにて明らかになったデータをまとめる。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	保健医療学特別研究Ⅲ	<p>(概要) 保健医療学分野の高度な専門家として自立した研究能力を身につけることを目的とする。1～3年次を通して研究指導を行う。3年次は、データをまとめ学会発表や国際雑誌への論文投稿を行い、学術的知見の情報発信の方法を学ぶ。</p> <p>(1 宮原洋八) 1,2年次で実施してきた地域の調査結果を踏まえ、博士論文を作成する。 到達目標 2年次で研究したこともまとめて学会発表、投稿する。</p> <p>(2 小浦誠吾) 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱまでに得られた研究結果を整理し、関連学会での口頭発表によって知見を発信するプレゼンテーション技術のブラッシュアップを試みつつ、国際的学術雑誌に得られた知見を論文として発表し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(3 大川裕行) 本実験で得られた結果及び結果の公開により得られたコメントを基に研究を進める。論文を学術誌に投稿してレフェリーからのコメントを得る。コメントに対応するとともに学位論文を完成させる。</p> <p>(4 大田尾浩) 調査実験から得られた研究結果を踏まえて、学会で発表し、論文を投稿する。また博士論文を執筆し、博士論文審査会の準備を行う。</p> <p>(5 原口健三) 特別研究Ⅱで得られた研究成果を「研究結果」としてまとめ、これらを考察して発表を行う。また、研究全体を通して、論文作成を行い、成果として論文投稿・学会発表の指導を行う。</p> <p>(6 東嶋美佐子) 研究結果をまとめて国際的学術論文に発表すると共に、博士論文審査会の準備をする。</p> <p>(7 宮本明) 特別研究Ⅲの3年次では、これまでの研究結果をまとめて論文審査のためのプレゼンテーション技術を練習し、博士学位論文内容に関連する国内外の学術大会発表や学術雑誌への論文投稿を行い、博士論文を作成する。</p> <p>(8 久保温子) 特別研究Ⅱまでに得られた研究結果を整理し、関連学会での口頭発表によって知見を発信するプレゼンテーション技術を学びつつ、学術雑誌に得られた知見を筆頭著者として論文を投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(9 白田久美子) これまでに得られた結果や知見を整理し、学会での発表を通してプレゼンテーション技術を学び、また学術雑誌に論文として投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(10 中島洋子) 特別研究Ⅲでは、これまでに得られた研究結果や知見を整理し、研究のプロセスに沿って研究課題解決に向けた論文を作成し、学会発表等を通じて、論文作成・プレゼンテーション技術を高める。また、関連する学術雑誌に論文を投稿し、博士論文を完成する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	保健医療学特別研究Ⅲ	<p>(13 押川武志) 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱまで得られた研究結果を整理し、関連学会での口述発表を公表、さらに論文を投稿し、博士論文の執筆、博士論文審査会の準備を行う。</p> <p>(14 小松洋平) これまでの研究で得た結果や知見を整理し、学術雑誌にそれらを筆頭著者として論文を投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(15 松谷信也) 研究で得られた結果や知見を整理し、学術雑誌にそれらを筆頭著者として論文を投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(16 八谷瑞紀) これまでの研究活動を通して得られたデータをもとに学術雑誌へ投稿する。さらに、これまでの成果を整理し博士論文を作成する。</p> <p>(2 藤原和彦) これまでの研究で得た結果や知見を整理し、学術雑誌にそれらを筆頭著者として論文を投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(18 中村雅俊) 特別研究Ⅲでは、これまで得た実験結果をまとめ、学会での口頭発表によって知見を発信するプレゼンテーション技術を学びつつ、国際的学術雑誌に得られた知見を論文として発表し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(19 西尾美登里) これまでに得られた研究結果や知見を整理し、学会発表を通じて、プレゼンテーション技術を学ぶ。また、学術雑誌に論文として投稿し、博士論文の執筆を行う。</p> <p>(20 岸川由紀) 科学的根拠に基づいた治療戦略を明らかにするため、病態生理学的観点から研究を進める。ここでは、論文のまとめ方を学ぶ。</p> <p>(21 植田友貴) 特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱまでに得られた研究結果を整理し、関連学会での口頭発表によって知見を発信するプレゼンテーション技術を学びつつ、国際的学術雑誌に得られた知見を論文として発表し、博士論文審査会の準備と博士論文の執筆を行う。</p> <p>(22 坂本飛鳥) これまで実施してきた研究より得られた結果や新しい知見を英語論文にまとめ、国際的学術雑誌や学会で発表する。同時に博士論文の執筆も行う。</p> <p>(23 松尾萌美) 研究結果をまとめ、国際的学術誌により得られた知見をもとに論文として発表するプロセスを学ぶ。また、国際的学術論文に発表し、博士論文審査会の準備を行う。</p> <p>(24 葛原誠太) これまでに得られた研究結果や知見を整理し、学会発表を通じて、プレゼンテーション技術を学ぶ。また、学術雑誌に論文として投稿し、博士論文の執筆を行う。</p>	

学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
西九州大学				西九州大学				
健康栄養学部				健康栄養学部				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
				【30】			【120】	デジタル社会共創学環に係る内数
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
		3年次		【30】			【120】	デジタル社会共創学環に係る内数
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
子ども学部				子ども学部				
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
		3年次						
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
				<u>デジタル社会共創学環</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	学部等連係課程実施基本組織の設置(届出)
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
西九州大学大学院				西九州大学大学院				
生活支援科学研究科				生活支援科学研究科				
栄養学専攻(M)	2	-	4	栄養学専攻(M)	2	-	4	
栄養学専攻(D)	2	-	6	栄養学専攻(D)	2	-	6	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	臨床心理学専攻(M)	5	-	10	名称の変更(届出)
				<u>臨床心理学専攻(D)</u>	<u>2</u>	-	<u>6</u>	課程の変更(認可申請)
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
健康福祉学専攻(M)	5	-	10	健康福祉学専攻(M)	5	-	10	
健康福祉学専攻(D)	3	-	9	健康福祉学専攻(D)	3	-	9	
看護学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(M)	5	-	10	
				<u>スポーツ科学専攻(M)</u>	<u>2</u>	-	<u>4</u>	専攻の設置(認可申請)
				<u>保健医療学専攻(D)</u>	<u>2</u>	-	<u>6</u>	専攻の設置(認可申請)
(計)	28	-	61	(計)	<u>34</u>	-	<u>77</u>	
西九州大学短期大学部				西九州大学短期大学部				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190	-	380	(計)	190	-	380	